

2023年度

学校関係者評価報告書



21世紀アカデメイア
Akademeia 21st Century

専門
学校 **名古屋ビジネス・アカデミー**
(2024年4月 名古屋スクール・オブ・ビジネスより校名変更)

2024年9月22日作成

はじめに

2023年度「自己点検・自己評価報告書」につきまして、各学科関係者及び地域の委員の方々に
審議・分析いただき、ご意見を頂戴しながら学校関係者評価委員会を開催し、
「2023年度学校関係者評価報告書」としてまとめました。

本校が職業実践専門課程を推進するなか、学校関係者評価委員のみなさま方のご協力に
心より感謝いたしますとともに、本報告書を次年度以降のよりよい学校づくりに向けて活用し、
時代の変化に合わせた発展的な学校運営を推進してまいります。

引き続き、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年9月22日

学校法人21世紀アカデメイア

専門学校名古屋ビジネス・アカデミー

学校長 前田 恵

(1) 教育理念・目標

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

	評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(1)- 1	学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	本校の教育理念・方針は、学則に基づき、学園理事長、学校長によって定められている。学生全員に配布し、教職員が指針とする『学生便覧』に「教育理念・方針」として明記している。	・周知の取り組みが、きちんとなされていると感じる。
(1)- 2	学校における職業教育の特色は何か	4	業界・企業とのパートナーシップのもと、業界・企業から求められる人材について分析し、特に社会人基礎力を高める教育を重視してきた。2023年度についても各学科で企業との連携をより深め、学園系列4校横断の教育イベントについては、全国コンテストを3学科はリアル開催、1学科はオンラインで開催した。	・企業との連携を深め社会人基礎力の向上に努める働きは重要だと感じる。 ・技術も大切ですが、社会人基礎力を始めとしたヒューマンスキル（対人能力、傾聴力、発信力、協調性、主体性、ストレス耐性など）はどの業界でも必要としているものですので、これまで通りの教育指針を続けて頂きたいと思います。
(1)- 3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	AIやロボティクスが加速度的に進む今後の社会において、ビジネスで活躍できる力を、学校、エリアを超えクロスオーバーするなかで身につける方針である学園のセブン・ステップ・カリキュラムをおおいに活かし、本校学生たちが成長していけるよう進める。	・セブン・ステップ・カリキュラムを是非活かした取り組みを今後も期待したい。 ・IT業界においてはAIなど最先端のニュースが目まぐるしく目立ちますが、まだまだ、ベーシックなプログラミング技術などがこの業界の仕事を担当しているのも事実です。時間的な制約もあると思いますが、学生の興味を惹く最先端なものに触れる授業とベーシックスキルを養う授業の両立が必要かもしれません。
(1)- 4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者等に周知されているか	4	学生に対しては、入学式前後1週間かけて新入生オリエンテーションにて学校の理念・目的・育成人材像などを周知させている。保護者会は、5月に対面で実施した（出席率60%）。	・周知の取り組みが、きちんとなされていると感じる。保護者会に関しては、対面・オンラインを併用することで、出席率の向上に繋がると感じる。 ・対面での実施は良いと思いますが、参加されない保護者へのフォローが気になりました。引き続き保護者への周知・協力体制の確立はされるべきだと思います。 ・学生の意志決定に保護者の与える影響が大きくなっていると感じています。保護者会などを通じて、学校の教育理念などを共有頂くことにより、家庭でのバックアップも得られると思います。

(1)- 5

<p>各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</p>	<p>4</p>	<p>新年度学科計画を立てる際、学科担当が業界リサーチを行い、カリキュラム編成に活かしている。また、業界企業委員から成る教育課程編成委員会で意見を伺い、企業連携科目を中心に、各業界企業のニーズを反映、実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none">・業界と連携をとり、ニーズを反映した教育に取り組んでいると感じる。・社会の構造や業務の複雑化、常に進歩する新技術への対応など、求められる人物像も変化し、授業内容への反映は非常に難しいと思います。そのなかで、外部組織と連携し、ニーズにマッチされるのは毎年ブラッシュアップを続けて頂ければと思います。
--	----------	---	---

今後に向けての学校の考え

職業実践専門課程認定校として、各業界の委員（教育課程編成委員会/学校関係者評価委員会）の方々や、卒業生が就職先としてお世話になっている企業さまからのご意見を反映したカリキュラムを実施してきました。各学科の全国コンテストや学科学校を超えてクロスオーバーで進めるイベントにつきましては、学園の系統4校ならびに学園全国17校と連携し、学生たちが就職後に活躍できる力を身につけられるよう、「A02.5 (3.5)」教育プログラムとしてさらに推し進めてまいります。講師・保護者のみなさまとも連携を深めながら学生1人ひとりと真摯に向き合い、成長を促す指導を引き続き進めてまいります。

(2) 学校運営

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(2)- 1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	運営方針・事業計画については、学園の方針・総意のもと、学校長と事務長、学園名古屋エリア事務局長、全国ビジネス系列校4校で協議しながら作成している。	・計画的、かつ組織的に決定されている。時代の変化に応じた学校運営が求められる中で、柔軟な取り組みとより多くの関係者の意見が集約されるようなシステム作りが今後も重要になるとと思われる。
(2)- 2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	上記運営方針のもと、毎年事業計画書を予算計画と連動して作成し、計画に沿って実施している。	
(2)- 3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか。有効に機能しているか	4	意思決定については理事会、議決機関としては、全国ビジネス系列校4校学校長がオンラインで協議するB系統会議、名古屋姉妹校4校の学校長・事務局長を中心とした名古屋責任者会議があり、各毎週実施している。 学内では、教職員が参加する定例学務ミーティングと担任会をそれぞれ毎週実施、学校運営に関する情報や学生状況(継続/就職活動進捗等)を共有し、課題と取り組みを組織的に協議するようにしている。	
(2)- 4 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	教職員の人事、給与に関する規定については、各人が定量・定性にわたる目標設定を学校長と協議のうえ設定、期末を前に達成進捗や振り返りを踏まえ、職務要件や給与テーブルに照らし合わせて次年度の昇給に反映される制度を整備している。	・適正に評価していく整備がなされていると思われる。
(2)- 5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	各教職員の報連相を重視し、意思決定は学校長・学務責任者等中心で行う。また、事務長が事業計画に基づく予算編成の段階から精査・共有し、学園事務局と連携しながら計画・実施している。	・連携を取り、整備されていると思われる。
(2)- 6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	教職員が地域社会へのコンプライアンスの重要性を認識し、学生指導している。また、社会人教育の一環として、就職指導の授業などで社会人としてのコンプライアンス遵守について指導している。	・適切なコンプライアンス体制を整備することは非常に重要である。その指導がなされていると思われる。

(2)- 7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	情報公開に関しては、学校のホームページで基本方針や学科の特徴・バリュー、カリキュラム、就職活動支援体制等を公開するとともに、職業実践専門課程認定校ならびに国の修学支援認定機関として、規定どおりの学校情報を公開している。	・適切に情報公開がなされている。
(2)- 8	情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	3	学生一人ひとりの情報に関して、取得単位数・資格、出席状況は成績管理システムにて管理。学生への連絡周知、オンライン配信授業や系列校会議については、Microsoft Teamsを活用。求人票や求人検索、就職活動内容をデータベース化した「スタログfor Recruit」、予算の執行時には学園稟議システム、人事評価には「カオナビ」システムを運用している。ただし、卒業生についての情報管理は、依然できておらず、課題としている。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年からの課題、卒業生の情報管理については、新たに立ち上がった「ネクスト・ステージ・アカデミー」の仕組みと合わせて検討される流れの中、まずは手元にある情報から具体的な一歩を進め、少しずつ情報蓄積を重ねて頂ければ、と感じます。 ・学校教育の生産性向上に情報システム化は不可欠であり、うまく活用されていると感じる。予算がある中ではあるが、卒業生の情報管理といった課題に関しても引き続き対応を進めてほしい。 ・卒業生の情報管理については必要なことだと思いますので、優先度を上げて取り組まれると良いのではと感じました。 ・転職が当たり前となっている現状では、卒業生の状況把握は大変難しいと思います。しかし卒業生の定着状況などは就職支援においても有益な情報になり、また後輩にとっても知りたい情報だと思いますので、ぜひ構築に向けて進めて頂きたいと思います。

今後に向けての学校の考え

学科ごとのクラス担任制を軸に、「学生サポート」「教育イベント」「就職キャリア」「クロスオーバー」といった学科・学校を超えた横串サポートをさらに推進し、学生たちの学びを高め、満足度を上げ、変化の兆しを把握し、学校事由による退学防止を強化してまいります。

卒業生のネットワーク化につきましては、学園全体で計画している「ネクスト・ステージ・アカデミー」構想が本校卒業生にとって有意義に機能していくよう進めていきます。

(3) 教育活動

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(3)- 1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	カリキュラム、シラバス、資格検定対策、及び学科コース運営に関する目標や計画については、年度ごとに学科担当が策定。業界企業委員で構成される教育課程編成委員会の承認のもと、2年または3年間で習得させる教科目と教育イベント、取得資格を一覧にした「カリキュラム編成シート」を作成し、実施している。	・教育理念に沿った、教育課程の編成・実施がなされている。業界のニーズを踏まえ学生の視点に立った更なる教育活動の向上を期待する。
(3)- 2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	企業連携科目を含め、産学連携による教育イベントについては、全国系列4校と協議しながら計画し、業界EXPO、トリミングコンテスト全国大会、全国ビジネスプランコンテスト、オンライン留学プログラム等に加え、2023年度はITビジネス学科の「A-TECHコンテスト全国大会」を本校で実施した。全教員(専任・非常勤)が担当する全授業について「授業計画書(シラバス)」を授業期初に提出。毎回の授業実施内容を「授業報告書」に記入し、共有できるようにしている。また、授業期ごとに担当教員の総括・要望をとりまとめ、授業の質の向上や改善に努めている。	・A-TECHなど学生にとってアウトプットできる場があるのは素晴らしいと感じました。昨今の学生は(他の大学、専門学校を含め)アウトプットすることに慣れていない方が多いと感じています。これらは経験によるところが大きいと思いますのでそういう意味でも重要です。
(3)- 3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4		
(3)- 4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか	4	キャリア教育については、1年次からの「就職指導」に加えて、1級キャリアコンサルティング技能士/公認心理師/シニア産業カウンセラーである講師が実施する「キャリア実践学」を配置。自己分析のための棚卸しから各人の強みを文章化するとともに、グループワーク・ディスカッションを通じてコミュニケーション能力の向上を図っている。本校では「実践的な職業教育」を、連携している業界企業へのインターンシップ及び業界現役あるいは企業からの派遣講師による学内での実践的授業ととらえている。年2回実施の教育課程編成委員会では、関連分野の企業等よりご意見をいただき、業界ニーズをとらえたカリキュラムにすべく反映している。	・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムが実施されている。業界団体との連携を更に深めより実践的な教育が今後も図れることを期待する。 ・就活が早期化するなかで、2年制専門学生は入学して半年後には就活準備が始まるというタイトなスケジュールを強いられているのが実情かと思えます。そこで専門講師が学生のキャリアを考えるサポートをされるのは学生にとっては大きな安心につながっていると思います。 ・インターンの前倒しは非常に良かった。実際にインターンを経験した学生は大学3年生と肩を並べるぐらいに成長をしている。良いところをより伸ばしていくことが重要。
(3)- 5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4		
(3)- 6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4		
(3)- 7 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	授業評価については、学生の「生の声」を聞くために、9月に「授業アンケート」を実施。アンケート結果について専任教員が共有し、現状の把握と授業内容・学校運営の改善に努めている。また、非常勤教員へのフィードバックを行い、改善や次年度継続可否の参考になっている。	・その年ごとで学生の考えや受取り方が異なるので、授業アンケートを実施する事で現状把握し、より良い授業内容の改善に努めることができていると思われる。
(3)- 8 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	「業界が求める人材」については、11-12月に実施した「業界EXPO」ご参画企業(2023年度実績81社)や学内会社説明会を開催くださる企業さまより直にお伺いするとともに、愛玩動物看護学科・ITビジネス学科(単位認定)、ペットビジネス学科を中心にインターンシップをお願いしている企業さま方から、参加学生についての率直な評価を学科担当や就職指導担当が伺い学内で共有している。また、カリキュラムや教育イベント、ゼミなどに反映している。	・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れ、カリキュラム等に反映がなされていると感じる。 ・IT業界は企業によって業務内容が様々ですので、それぞれ求める技術(開発言語、開発手法など)は異なりますので、授業内容への反映は非常に難しいと思います。

(3)- 9	成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	学則および「学生心得・細則」(学生全員に配布する『学生便覧』に明記)に則り、厳正に行っている。『学生便覧』は、新年度開始時のオリエンテーションで学生たちに周知するほか、保護者会でも配布し説明、保護者のご理解を促している。	・周知、説明が適正に取り組まれていると感じる。
(3)- 10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	各学科のカリキュラム編成シートに取得スケジュールが明記されており、取得すべき資格・検定については、該当対策授業のほか、授業時間外で対策ゼミを行ったり、質問に答えるなど、合格率アップのために指導している。また、年度ごとに取得実績を記録し、指導体制の強化、内容改善に努めている。	・カリキュラム編成シートにて取得スケジュールを明記していることから計画的に資格取得できる環境が整備されている。授業時間外で対策ゼミの実施など、合格率向上に向けた取り組みも評価できる。 ・資格取得は専門分野で学んできたエビデンスになり、学生にとっても自信につながると思います。これまで通り、対策ゼミなどの施策は継続し合格率アップを目指して頂きたいです。
(3)- 11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	現教員は、専任・非常勤含め、学科の教育目標や実施方針を遂行でき、業界レベルの指導ができると判断している。	・要件を備えた教員の確保がなされている。 ・先生方の給与upはされているのでしょうか
(3)- 12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3	期中に専任教員の退職があり、それに伴って教員が異動せざるを得ない事態があった。後期に後任者を採用し、担任が変わることとなった学科の学生たちが不利益を被らないよう、リーダーを中心にサポートした。質の高い授業を提供するためには、学科担当と非常勤講師との連携は必須である。それを、学科担当が職務としてとらえ、双方でコミュニケーションを取りながら進める体制としている。	・質の高い授業を提供するために、今後も学科担当と非常勤講師との連携を徹底し学生がより深い学びができる事を期待する。 ・予期せぬ退職以外にも、欠員にそなえた人材体制作りは学生のためにも欠かせないと感じます。
(3)- 13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	3	2023年度の教員研修実績が組織的・計画的に実施できたとは言えない結果となった。学科担当の業務増大と効率化しづらいマルチ業務が依然として大きな要因であり、経年の課題となっている。教職員個人が各専門分野や職務のスキルアップのため情報収集をして、積極的に研修に参加するよう改めて周知する。教職員が外部研修で刺激を受けて成長することこそ、授業や学務業務の質を上げられると肝に銘じ、自主的に学ぶ姿勢を持てる環境を整備する。	・2023年に実施できなかった要因が明確になっている為、早急な環境整備が必要である。 ・研修はもちろん大切ですが、先生方の作業量増によって隠れ残業の増加(ないとは思いますが未払い残業代の発生)、メンタルへの影響が心配です。 ・自担当業務が逼迫している状況では、とても自己研鑽に励む環境でないと思うため、まずは業務効率化という課題を最優先に捉え取り組まれると良いのではと思います。
(3)- 14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	2		

今後に向けての学校の考え

各学科のカリキュラムは、学科担当のリサーチ、教育課程編成委員や連携企業のみならず、卒業生や採用企業ご担当者のご意見を反映し、業界で求められる力についてより精査し、学生たちが「実践できる」ことをポイントに引き続き取り組んでいきます。AI化が進むなか、ビジネスで活躍できる力の習得や新しい変化への対応について、学園の新しい教育メソッドを学生ファーストで実直に推進してまいります。

教職員研修については「年に1~2回以上自主的に参加」を条件に、多様な業務のなか実施できますよう組織として進めます。

(4) 学修成果

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

	評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(4)- 1	就職率の向上がはかられているか	4	2023年度就職率(求職者に対する)100%(卒業者に対する求職率96.9%、内定者のうち業界内定率91.7%)。1年次からの「就職指導」授業、11月末「業界EXPO」、早期選考・推薦枠の獲得、インターシップの促進、学内会社説明会等の枠組みに加えて、学科担任と就職指導担当が連携して学生1人ひとりをねばり強くサポートしてきた結果だと考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・学科担当の方と就職担当の方々の、学生一人ひとりの個性に寄り添った、ネバーギブアップの連携力は、学生達の体感として残り、未来においても大きな力となることでしょう。 ・求職者に対する内定率100%は素晴らしいです。学内イベントを中心にした就職指導の先生のサポートの賜物だと思います。 ・就職率以上に、業界内定率の高さは素晴らしいと思います。可能であれば卒業3年後の定着率などもウォッチできると、サポートにおいてよりよい振り返りができるかもしれません。 ・就職率100%が本当に重要か改めて考えて、就職率だけにこだわらず、さまざまな選択肢を学生が持てるようにしていく方がいいと考えます。
(4)- 2	資格取得率の向上がはかられているか	3	資格検定については、学科担任が担当講師と協議しながら、合格率を上げるべく当該年度も努めた。合格率が全国平均を超えたものは、サービス接遇検定準1級ロールプレイング、PC検定など。一方で、色彩検定、リテールマーケティング(販売士)、日商簿記検定は、全国平均レベルを大きく下回り、経年の課題である。愛玩動物飼養管理士、基本情報技術者試験といった専門資格に関しても昨年度より合格率が下がっており、抜本的に指導や実施について検討する必要があると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率や資格・免許の取得率は、入学希望者を集める上で非常に重要な指標になると思われる。この数字を維持・向上させる為には、担当部署・担当教員だけではなく、学校全体での目的意識の共有とそれに向けた取り組みが必要になるので、今後も更なる組織体制の強化が望ましい。 ・理由が明確に分かっているのであれば良いのですが、日商簿記検定の合格率が平均レベルを大きく下回ったという点が気になります。 ・資格取得と実践的な内容の両立は時間的に厳しいかもしれませんが、貴重な情報系の専門学校としてこれまで通り取り組んで頂けることを期待しています。基本情報技術者試験の取得は就活において有利になりますので、そのあたりも学生様のモチベーションに繋げてください。 ・資格取得に対する学生の心構えを日頃から作っていかねばならない。資格取得の対策を学校に依存するのではなく、当事者意識を持って取り組めるようにすべき。 ・東京、大阪、福岡の他校と資格取得対策で横のつながりを作るとよいのではないか。

(4)- 3	退学率の低減が図られているか	3	<p>退学理由については、メンタル事由等が増えているものの、学習意欲の低下、クラスになじめない・友人トラブル、進路変更など、学生満足度に関わる理由もある。各学科担当がクラス担任として出欠席の管理、講師との情報交換、保護者との連携、学生とのコミュニケーション・指導について一度振り返るとともに、出願時期が遅い学生について業界や職種等について丁寧に伝え、入学後にギャップが出ないように、とくに留意する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中途退学率を今後下げる為にも、現在のフォロー体制にプラスして、保護者との連携に関して具体的なアプローチ方法を見つけていくことは必要不可欠である。 ・近年にない退学率という点が気になります。理由は多様であり難しいと思いますが、ひとつひとつ理由を潰して改善できることを望みます。 ・企業においても、早期退職は大きな課題となっております。もちろん、経済的理由などやむを得ない理由もありますが、それ以外の退学について学校としてのフォローアップ体制も重要かと思えます。 <p>ただ、一定数は「何となく入学を決めた」という学生もいると思いますので、そのあたりについても、入学前に進学する目的を学生自身が考える必要があるのではないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学に対する目的意識を入学前からしっかり持たせなければなりません。
(4)- 4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	<p>卒業生の活躍および卒業後のキャリア形成への効果の把握については、卒業生の就職先企業さまからの情報や、学科担当との関係性による一部の卒業生の断片的な情報に限定されており、学校が体系的に卒業生の現状についてリサーチできているとは言えない状況である。学園の新しい取り組みとして、2023年度より「ネクスト・ステージ・アカデミー」という、卒業生のキャリアを生涯サポートするしくみが立ち上がっている。本校として、このしくみを卒業生に周知し、卒業生が活用できるよう進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の活躍は在校生の将来の希望にも繋がるので卒業生同士のネットワーク、学校と卒業生のネットワークを構築し、情報共有や相互サポートを促進していくことが重要となる。 ・現状、退職が決まってから、先生方とやりとりすることが多いので、事前に連携を図りながら、改善点などを見つけれられると良いかと思えます。 ・生涯サポートをして頂けるのは、学生にとっても安心だと思います。周知も含め、それらを活用できる仕組みが重要かもしれません。 ・ネクストステージの取り組みは非常に良いと思えます。
(4)- 5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4		<ul style="list-style-type: none"> ・生涯のキャリアサポートという取り組みは素晴らしいと思えます。卒業生に周知活用してもらうためにも、卒業生の情報管理の整備は欠かせないと感じました。

今後に向けての学校の考え

不登校経験者やメンタル事由を持つ入学者が増えていることが否めない現状を踏まえた対応が求められております。また、入学前に業界の厳しさ等も合わせ伝え、入学後のイメージギャップを軽減することも必要だと考えます。就職率と進級・卒業率は、学園として定数評価の対象であり、学校運営の要として目標値を常に意識しクリアし、「辞めない学校・就職する学校」、加えて「ビジネスで活躍するプロフェッショナル力を備えた人材を育成する学園・学校」の実現を常にめざします。

資格の取得・合格率に関しましては、当該年度も大きな課題が残る結果となりました。資格受験時期の精査や対策ゼミ・特別授業など、次年度改善できるよう取り組みます。

(5) 学生支援

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(5)-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	進路・就職への支援体制について、本校では取得単位外を含めて就職活動支援に力を入れており、2023年度で求職者に対する就職率100%を10年連続達成した。1年次11月の就職イベント「業界EXPO」を軸に就職内定が決定するまで、入学当初より週1回授業を実施。必要に応じて保護者へ連絡し、学校と家庭とが協力して学生サポートにあたることを大方針としている。	<ul style="list-style-type: none"> ・求職者に対する就職率100%を10年連続達成! は素晴らしい、ご担当者皆様方の熱意と学園の総合力に感服いたします。 ・就職活動支援のカリキュラムが十分に整備されていると感じる。引き続き、学校と家庭とが協力しサポートできる環境を継続してほしい。 ・保護者とも連携し丁寧に対応されていることが就職率100%という数字にも繋がっていると思うので、素晴らしいと思います。 ・貴校の学生からお話を聞きするなかで、就職サポートも含め、学生ひとりひとりに寄り添った親身になった対応をされているという印象で他校様とは差別化できていると感じます。 また、早い段階での業界EXPOや単位制インターンシップなど学生に就活意識を植え付ける指導が学生によって有意義なものだと思いますので、引き続き実施して頂きたいです。
(5)-2 学生相談に関する体制は整備されているか	4	学科担任との面談に加え、学生の精神的な悩みについては、学園に「なんでも相談室」があり、スクールカウンセラー(公認心理師/臨床心理士)が予約制で相談業務を行っている。日々の学生を支援する担任活動で共有すべき事例については、毎週の職員ミーティング/担任ミーティングで協議し、当該学生にとってよりよい対応に向けて意見を出し合い、担任以外にも支援に加わるなどしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「なんでも相談室」の設置と共に、専門家と担任、また担任以外の方々も含めた連携サポートは、視点が広く、常に学生に寄り添った親身な学園の体制を感じます。 ・相談窓口が整備され、職員での情報共有もできていると感じる。時代に合わせた気軽に相談できる環境を引き続き取り組んでほしい。 ・なんでも相談室はとても良い施策だと思います。担任など利害関係がある人には相談にくい事も、第三者的な立場であれば話せることもあると思います。いかに気軽に相談できるような環境を維持していくことも、検証を続けて頂ければと思います。 ・担任以外にも頼れる人がいるという環境があると良いと思います。
(5)-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	学生の経済的な支援については、入学前のAO特待生制度(特待生には学費減免)、学費の分納制度、日本学生支援機構奨学金や修学支援新制度に関する周知・説明・申請・報告、進級前の校友会学費支援制度がある。日本学生支援機構奨学金の緊急申請についても臨機応変に対応し、修学支援新制度/給付型奨学金の対象校として、サポートしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援制度についての周知、説明等、きちんと対応されている。また、緊急申請においても臨機応変に対応されている点から評価ができる。 ・経済的な理由だけで進学を諦めなければならないのは、残念に思いますので、奨学金などの案内や手続き支援などは非常に学生にとってメリットがある取り組みだと思います。

(5)- 4	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	学生の健康面支援は、定期健康診断を毎年実施しデータ化。学生や教職員のメンタル面を支援する「なんでも相談室」とは、集団守秘義務のもと学務室が連携し、学生の状況把握と退学防止に努めている。	・学生の健康管理と組織体制の整備がなされている。
(5)- 5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	2023年度の課外活動としては、学生委員が中心となって企画し、全員が参加する学園祭、スポーツ大会に加えて、新入生歓迎会やボウリング大会などを初めて実施、学科を超えた交流を図った。11月には、名古屋市獣医師会の外郭団体である名古屋市人とペットの共生サポートセンターが主催する「猫の譲渡会」に、栄という立地を活かして教室を会場として提供、学生と教員たちがボランティアスタッフとして当日サポートした。	・課外活動は、チームワーク力やコミュニケーション力を高めれる機会である。今後も学科を超えた交流が増えるよう積極的に取り組んでほしい。 ・学生の本分は学業ですが、やはり学校はそれだけではなく、仲間との関係構築も大切なものです。学園祭やスポーツ大会などのイベントはこれまで通り積極的に展開して頂きたいです。
(5)- 6	学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	遠隔地出身者に対しては、学園が適正と認める業者(学生寮・学生マンション・アパート等紹介)を厳選し、案内している。学生が安全で衛生的かつ快適な生活環境を確保できるよう支援するとともに、健全に生活できているかどうか、担任が把握するよう努めている。	・学生が安全で安心に過ごせる生活環境の支援、担任のサポート体制の取り組みもなされており評価できる。 ・遠隔地出身者に対する担任の先生含めた丁寧なサポート、安心感があると感じました。 ・1人暮らしの学生は、よりフォローが必要だと思います。 生活環境、メンタル状況などケアを続けて頂き、少しの変化も早期発見できる仕組みがあれば、途中退学などのリスク軽減に繋がるのではないのでしょうか。
(5)- 7	保護者と適切に連携しているか	4	科目ごとで欠席が重なったり、進路・就職について、学生の個別面談等で出てきた課題について、担任が保護者へ連絡。学校と家庭が協力して学生のサポートにあたっている。	・保護者と適切に連携できている。
(5)- 8	卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生の再就職相談については、依頼があれば担任や就職指導担当が個別で対応している。また、学園で立ち上がっている「ネクスト・ステージ・アカデミー」を周知し、本校卒業生にとっても恩恵があるよう進めたいと考えるが、具体的な支援は次年度以降本格的になる予定。	・早期離職も増えている昨今においては、卒業後の状況確認や再就職支援に関してもシステム化が必要だと感じる。 ・残念ながら早期離職するケースも増えているので、再就職サポートを学校が行って頂けると親御さん学生さんにとって心強いと思います。 ・第二新卒の再就職フォローアップの仕組みが卒業生に周知されていれば、学生も安心できると思います。

(5)- 9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	1	社会人が働きながら学べる教育環境の整備は予定していない。	・学校方針に従う。
(5)- 10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	地域の各高校から、面接指導や模擬授業等の依頼があった場合は、本校就職指導担当や広報職員が出向いて職業ガイダンスや講座を実施しているが、回数としては限られている。とくに、授業を持っている教員が専門授業のために高校に訪問することは、スケジュール調整が難しいケースが多い状況である。	・高校と連携したキャリア教育は、学生の学びの選択肢が広がると同時に学校の宣伝にもなる取り組み。教員の負担にはなるが可能な限り実施できることが望ましい。 ・可能であれば、低学年の高校生を対象とした、学校開放や出張授業などの取り組みができれば、進路決定において早めの意識付けができるのではないのでしょうか。
(5)- 11	関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	1	卒業後に関して「関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等」は実施していない。	・今後のニーズに応じて対応してもよいと思う。

今後に向けての学校の考え

クラス担任との定期的な個人面談に加え、科目講師、就職キャリア、学生サポート、スクールカウンセラー、保護者の方々と、学生1人ひとりに対して重層的な接点をつくることで、個別支援を引き続き強化いたします。
社会人教育に関しては、教職員の業務量等を勘案し、学校フロアの地域開放や在校生の地域・社会貢献活動に力を入れることで、代替させてまいります。

(6) 教育環境

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(6)- 1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	施設・設備に関しては、安全・快適な環境でより効果的な授業が実施できるよう、毎年度設備計画を作成し、校舎や実習室・設備の改修を行い、安全性・利便性・清潔感の向上に努めている。2023年度施設・設備については、教室照明LED化(第1期)や屋上防水工事、防犯カメラ増設、実習室改修、実習備品追加等を計画し、学習環境を整備した。 各施設・設備については、平面図や備品台帳、教室稼働表など書類で管理している。業界企業とのパートナーシップのもと、分野に即した実践的実習授業を校内で実施できる環境整備にこれからも努め、学生の意欲とスキルを向上させ、成長へとつなげる。	・必要に応じて整備されている。今後も、安全で快適な環境で授業が実施できる取り組みを継続してほしい。
(6)- 2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3	インターンシップに関しては、ITビジネス学科、愛玩動物看護学科の単位認定制の連携企業とのインターンシップほか、他学科についても1年次夏以降、就職活動につながるインターンシップについて積極的に促進している。 海外研修については、希望者対象の海外研修を計画したが、安価な価格設定ができず参加希望が少なく催行できなかった。 学生たちのグローバルな視点を広げる点に関しては、アメリカカリフォルニアにある本学園拠点ロサンゼルス・アカデメイアと全国ビジネス姉妹校4校をつなぐ「オンライン留学プログラム」を1年生対象に年1回行っている。	・各学科がインターンシップへ積極的に取り組めており教育体制が整備されていると感じる。海外研修においては、情勢や学生のニーズにより今後、柔軟な対応が必要になる。オンライン留学プログラムの実施は引き続き継続してほしい。 ・海外研修については費用負担の問題が重く、難しくなってきたと思います。オンライン留学を含めた代替となるような研修プログラムを充実させることが学校の魅力向上にも繋がると思います。 ・就活スケジュールがタイトになりがちな2年制専門学生において、1年生の夏～秋に単位制のインターンシップの場を学校が作られるのは学生にとって、とても有意義だと思います。高校生気分が抜けて本格的に就活に向けていく導線のきっかけになっているのではないのでしょうか。
(6)- 3 防災に対する体制は整備されているか	3	非常時における備品の確保や災害時の緊急対応への整備が充分ではないと認識している。 避難訓練は、校舎ごとに2回に分けて実施した。 非常時の避難経路等は、避難訓練の実施とともに、常勤教職員のみならず、非常勤講師、クラス単位で周知している。	・予測不可能な自然災害が多発している現状、弊社も同様ですが、これまで以上に備えと、発生時のシミュレーションを重ねる事が大切であると痛感しております。 ・非常時における備品の確保や災害時の緊急対応の整備は早急に進めるべきである。 ・企業においても課題感は持ちながら、なかなか具体的な対策ができていないところも多いと思います。万が一の大規模災害が起きた際の、学校運営の継続性の検証(設備や資料のバックアップ、復旧体制など)も検討できればと思います。

今後に向けての学校の考え

海外研修につきましては2023年度計画するも、円安影響での費用面が理由で催行できませんでした。グローバル施策といたしまして、学園独自の英語習得サブサイト、系統4校主催ロサンゼルス拠点からのオンライン留学プログラムを実施しております。学生がグローバルな視点を養えるカリキュラムを次年度も進化させてまいります。

(7) 学生の受け入れ募集

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(7)- 1 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	本校は、一般社団法人愛知県専修学校各種学校連合会の会員で、募集活動に関わる諸規則を尊重し、適切な募集活動に努めている。学生募集活動については、「入りを計り、出るを制す」という学園の建学の精神のもと、高校や設置会場でのガイダンスに広報職員が出向き、年間数百人の高校生ならびに高校の先生方に本校や業界について情報提供している。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供の取り組みがなされている。 ・少子化、IT技術者不足の社会において、東海地方では貴重な情報系の専門学校であると思います。特に地元志向の強いこの地方では、有難い存在です。質と量のバランスは難しいと思いますが、積極的な募集活動を続けて頂きたいです。
(7)- 2 学生募集活動は、適正に行われているか	4	本校の入学資格は、高等学校卒業資格を前提としたうえで、過去の学業成績よりも学ぶ意欲や目的意識を選考基準として重視し、これから新しい分野に挑戦する初心者に対して入学の門戸を大きく開いている。本校の教職員は、募集活動を「入学検討者に対する進路サポート」と心得ており、①印刷物・webサイト・高校ガイダンス等を通じた、有用かつ新鮮な情報提供 ②おもにオープンキャンパスでの模擬授業を通じた技術・知識の提供、入学相談 ③入学検討者の疑問や不安を解消するため、電話やメール、SNS等を通じたカウンセリングを行っている。遠方等で来校しづらい方には、無料送迎バスの運行やオンラインでの入学相談などにも対応した。	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の志向に合わせて、SNSを活用している点を評価できる。学校の特色の情報発信、アプローチもできている。 ・各種施策により、進学後のミスマッチを防止するために最善を尽くされているという印象です。 ・AO2.5の制度を学校を検討している高校生にも活用できると入学へのアピールにつながると思います。
(7)- 3 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4	入学者の約9割が利用するAO入学制度においては、募集活動と教育のシームレス化を実現すべく、「AO2.5教育プログラム」というコンセプトのもと、入学前授業(AOプレスクール:入学前7月～3月で計9回)を実施。専門分野の学習へスムーズな移行と入学後へのモチベーションアップ、将来のクラスメイトとの交流を目的としている。また、教育効果として、企業と連携した実践的な授業内容、設備、就職サポート体制のほか、OB・OGの活躍、就職先一覧などについて、募集活動のなかで情報提供している。	<ul style="list-style-type: none"> ・AO入学制度において、AOプレスクールの取り組みは、ミスマッチを防ぎモチベーションアップに繋がる取り組みである。引き続き、正確な情報を発信し募集活動を継続してほしい。 ・企業における採用と同じだと感じました。入社させることが目的になりがちですが、大事なことは長く勤めてもらえることです。そのため良いことばかりではなくネガティブな情報(仕事における大変なことや会社が抱えている課題など)も積極的に出していくようにしています。それによりお互いの納得感を得られ、定着率の向上につながると思っています。
(7)- 4 学納金は妥当なものとなっているか	4	学納金は名古屋地区の同業他校と比較して妥当であり、提供するカリキュラムや教育環境・設備の質、社会人基礎力の向上のための授業の配置や教育イベントの充実などから、学納金に見合った価値を提供していると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学納金に見合った価値を提供できている。 ・長期的には教員採用や設備投資資金に余裕がなくなる前に値上げも検討してもいいのでは。

今後に向けての学校の考え

学生募集につきましては、学園系統校との共同PRやツール制作、コンテンツ共有等、効果効率化を引き続き進めます。18歳人口が減少し、大学進学 のしやすさ等、入学検討者のマーケットが年々縮小していく状況は明白です。競合優位性をより適正に検討者・保護者の方々に周知し、ご理解いただけるよう、メディア、コンテンツ、タイミング、SNSやSEO対策など全方位的に検討し、あらゆる打ち手を検討しながら強化してまいります。

(8) 財務

適切・・4 ほぼ適切・・3 やや不適切・・2 不適切・・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(8)- 1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	学生納付金は帰属収入の90%以上を占める最大の財源だが、多様な学生ニーズに応えるべく教育内容の充実を図り学生数確保に努めるとともに、学科・コース構成の再構築、業界企業さまとの連携、施設設備の充実等、財源を効率かつ最大限に活かせるように努めている。	・問題ないと思われる。
(8)- 2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	学校運営に関わる予算については、各校・各学科にて年度予算を編成。具体的な各費目の大枠について、あらかじめ検討・承認された予算費目に基づき、備品購入や施設設備の充実・改修などに対する相当額を各校で予算化し、学園本部会議にて最終検討のうえで概算予算を決定している。	・問題ないと思われる。
(8)- 3 財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	私立学校法の規定に基づき、学園法人本部の所管で監事により業務・財産状況の監査が行われており、会計年度終了後2か月以内に理事会及び評議委員会で決議を受けている。また、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。	・問題ないと思われる。
(8)- 4 財務情報公開の体制整備はできているか	4	財務諸表においては、学園のホームページで公開するとともに、国の修学支援制度/給付型奨学金の要件を満たす機関としての適切な財務基盤を有し、情報公開を実施している。	・問題ないと思われる。

今後に向けての学校の考え

入学者数の減少リスクに伴う収益減少を想定すべき状況下であります。学科別でも収益率に差が出ています。費用対効果の高い実習費・設備投資・募集経費計画を立てたうえ、経費節減に努め、各学科で学生満足度を下げることなく、在籍数の拡大に繋がる健全な学生募集活動と学校運営を引き続き推進してまいります。

(9) 法令等の遵守

適切・・4 ほぼ適切・・3 やや不適切・・2 不適切・・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(9)- 1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	本校では、専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っている。 学園本部には、弁護士および公認会計士をメンバーとするコンプライアンス委員会が設置されている。通報窓口が周知され、学園として法令違反に関する情報を的確に収集するとともに、専門家の知見を踏まえた対応をとる体制としている。また、責任者対象のハラスメント講習会を年1回実施している。	・問題ないと思われる。
(9)- 2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	学校法人全体として各種情報の保護を図っている。「個人情報保護法に関する教職員規定内規」を定め、個人、部署ごとに情報の漏えいがないよう取り組んでいる。また、講師会において非常勤講師にも注意喚起を行い、個人情報の保護に努めている。	・問題ないと思われる。
(9)- 3 自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	学生アンケートを含め自己点検・自己評価を実施し、本校の教育改善に役立てることを目的に今後も継続して実施をする。引き続き、自己評価のレベル向上に努める。	・問題ないと思われる。
(9)- 4 自己評価結果を公開しているか	4	本校の「自己点検・自己評価報告書」は学園ホームページで毎年度公開している。	・問題ないと思われる。

今後に向けての学校の考え

学園本部が設置するコンプライアンス委員会のもと、教職員と講師が法令遵守を日々意識し、ハラスメントや個人情報保護の観点やSNSに関するリテラシー、情報漏洩防止等に努めております。学生にはオリエンテーション等を通して引き続き徹底してまいります。

(10) 社会貢献・地域貢献

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(10)- 1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	11月には名古屋市人とペットの共生サポートセンター主催、譲渡ボランティアによる「猫の譲渡会」に会場として提供し、学生と教員が会場スタッフとしてボランティアでサポートした。今後も、立地の利便性を生かした社会貢献・地域貢献を機会があれば推し進め、学生が自発的にボランティア活動を自主的に行える機会を提供していく。また、学園祭など公開するイベントに関しては、地域のみなさまに来校いただけるよう早めから計画していく。	・会場を提供し積極的にボランティア活動に参加されている。学生が自発的にボランティア活動を行える機会を増やし社会貢献できる取り組みを継続してほしい。
(10)- 2 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4		・今年度より田坂理事長のもと、新たな組織体制、学園名となられた中、これまで以上に実社会で活躍する方々との接点となる場づくり等、計画されることを期待いたします。
(10)- 3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2	地域に対する公開講座や教育訓練等の受託については、社団法人日本ペットマッサージ協会や社団法人日本メディカルアロマセラピー協会検定、名古屋市の外郭団体主催「猫の譲渡会」、ペットビジネス企業主催トリマー向けセミナー等の会場として教室や実習室を提供しているが、地域に対する公開講座等の受託は行っておらず地域に対する学校としての貢献については、まだまだ足りないと感じている。	・会場を提供し積極的にボランティア活動に参加されている。学生が自発的にボランティア活動を行える機会を増やし社会貢献できる取り組みを継続してほしい。

今後に向けての学校の考え

社会貢献・地域貢献活動につきましては、栄5丁目に立地する2つの校舎フロアを地域活動等に役立てていただける機会があれば積極的に検討したい、という考えは変わりありません。栄4・5丁目を盛り上げる地域創成イベントを学園で検討してほしい、というご意見につきましては、名古屋4校で検討してまいります。

(11) 国際交流 (必要に応じて)

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(11)- 1 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	3	2023年度はITビジネス学科に3名、総合ビジネス学科に1名の留学生が入学し、全員が進級している。門戸を開くといった点では、入学人数を増やせる戦略をもう少し取っていきたいと考えている。留学生については、学習意欲や国内就職意欲の高い者を受け入れるという体制としており、2024年度は4名を受け入れている。職業教育機関である専門学校として留学生の受け入れに果たす役割は大きいと認識し、意識の高い留学生を積極的に受け入れ、進級、国内就職をめざしてもらえよう進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流の活性化として、2023年度、2024年度と継続して留学生を受け入れ、進級実績もあり、職員の方々のきめ細やかなサポート力を感じます。この流れを大切に、より学内で学生が国際的刺激を感じられることを期待します。 留学生の受け入れ体制を強化し、入学者を増やすアプローチが重要となる。 「学習意欲や国内就職意欲の高い者を受け入れる」という方針は職業教育機関としての正しい役割であり素晴らしい考え方だと思います。そういった学生をどう見極めるか・増やすかというこれからの戦略に期待です。
(11)- 2 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	入学前、入学後の学生ビザ確認・更新に際しては、適切に手続きが進められるよう担当職員を置いて対応し、名古屋出入国在留管理局より「適正校」と選定されている。	<ul style="list-style-type: none"> 問題ないと思われる。
(11)- 3 (留学生の学修・生活指導等について) 学内に適切な体制が整備されているか	4	2023年に在籍した留学生は、N2を持ちネイティブで日本人学生と同様に授業を受け、取得した資格をよりどころに、担任や就職指導担当のサポートのもと、積極的に就職活動を進めた。	<ul style="list-style-type: none"> 進級結果からも適切なサポート体制が整備されている。
(11)- 4 学習成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	新入生4名の留学生は全員が進級。ITビジネス学科2年に進級したマレーシア籍1名は、国内のIT企業への就職をした。台湾籍1名は卒業したが、家業を継ぐために自国に戻った。	

今後に向けての学校の考え

N2保持者が国内就職できる分野を鑑みた学科においてカリキュラムを整え、ビザ更新、進級・卒業に繋がる生活全般まで含めた支援体制を整えております。次年度は在学中に国内就職をめざす留学生コースの検討をしております。日本国籍の学生にとっても外国籍の学生にとっても有意義な異文化コミュニケーションを推進できる学校をめざします。